

理科だより

発行

平成21年10月5日

編集 RIKADAI SUKIMAN

小石川植物園

小石川植物園を見学しました。かなり昔「ムクロジ」の木があり、その種皮を水に溶かして石鹸にした覚えがあったので、それを探しに行きました。園内が広く、なかなか見つかりませんでした。あきらめかけていた所、職員の方が「スズメバチに注意して下さい」と注意してくれたのでその時「ムクロジはどこでしょうか?」と聞いてみました。「えーっとどこだったかな?」とのことで、急がしうで迷惑になりそうだったため、そこで職員の方と別れました。しばらくして、売店でコーヒーを飲んで休んでいると、売店にいたおばさんが電話をしていました。蜂にさされた人は病院で無事だったとのやりとりをしていました。そこへ先ほどの職員の方が戻ってきて蜂にさされた人が無事で良かった話と、どこにスズメバチの巣があるのか調べないといけなという話をしていました。そのとき、私のことを覚えていてくれて、ムクロジの場所へ案内してくれました。(ありがとうございました)

ムクロジ以外にも、たくさんの事を知ることができました。裸子植

物である「ソテツ」「イチヨウ」など雄株と雌株が受精するのですが、それを科学的に突き止めたという記念樹がありました。「メタセコイア」も生きている化石として有名ですが、発見の由来が詳しく説明されていました。

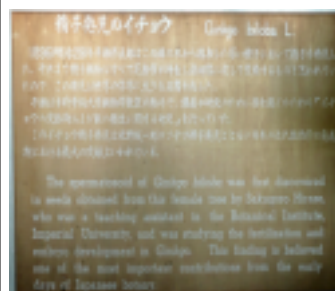
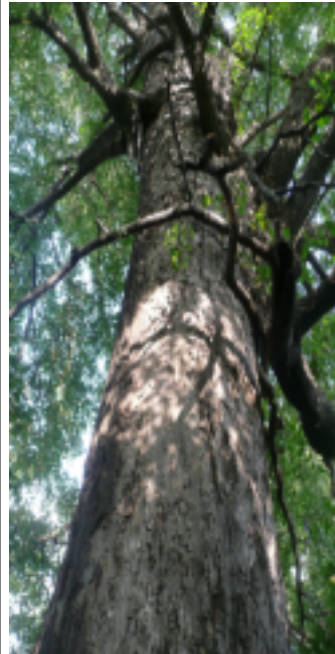
ムクロジ

ムクロジ (Sapindus mukurossi) 同科の樹木モクゲンジ漢名。木楽子が誤用されたことに由来します。属名はラテン語の「sapo indicus (インドの石けん)」に由来し、果皮が石けんとしてインドでは古くから使われたことに由来します。果皮はサポニンという物質を含み、種子は正月の羽根つきの玉として用いられます。

「サポニン：環状構造をもち、植物の成分として広く分布する配糖体の一種。水に溶解して石けんのように泡を生じる。」



イチヨウ



以前、NHK高校講座において、このイチヨウが紹介されていたことを思い出しました。ちょうど銀杏が落ちていて、独特の臭いを放っていました。資料によると「1896年(明治29)年に平瀬作五郎が、種子植物にも精子が存在することを世界で初め

て発見した記念すべき木である」とあります。

メンデルとブドウ



ここにあった看板をそのまま転機します「遺伝学の基礎を築いたメンデルが実験に用いた由緒あるブドウの分株です。第二代植物園長を務めた三好学が大正二年にチェコのブルノーにメンデルが在職した修道院(現在のメンデル記念館)を訪れたとき、旧実験園に残っていたブドウの分譲を依頼して、その翌年に送られてきたものです。その後、メンデル記念館のブドウは消滅したことがわかり、本園のブドウを里帰りさせて、現地にも同じブドウを里帰りさせました」



こちらは、ニュートンの生家にあたりんごの木だそうです。「万有引力の発見」につながるりんごの木。